

## <金標準、円安の恩恵を失い再度 9400 円へ・・・>



(出所：オアシス)

NY 連銀が発表した 1 年先のインフレ期待が前月の 3.7%から 3.6%へ低下し、消費者物価指数 (CPI) でも前年比で 3.2%へ低下、コア部門でも前月を下回る 4.0%となるなど、インフレ指標が低下を示している。またジョンソン下院議長が来年 1 月 19 日と 2 月 2 日までのつなぎ予算案が下院議会で民主党の支持を受けて可決した事から、米国政府機関の一部の閉鎖は回避されている。特に小売売上高や鉱工業生産が低下するなど、12 月の FOMC での利上げ観測が後退し、来年 6 月には利下げ観測が高まるなど NY 金は 1940 ドルから週末には 1996.4 ドルまで押し上げている。

しかし金標準先物は、インフレ指標の低下から利上げ観測が後退し、米国 10 年債金利は 4.5%を下回るなど金利低下を受けて為替市場では 152 円まで進んだ円安が週末には 149.20 円まで円高が進み、金標準先物も 9605 円から 9522 円まで下落するなど、国内金価格は円安の恩恵が剥げ落ちており、今週は再度 9400 円へ向けた下値追いに注意が必要と思える。

### <テクニカル>

金標準先物の日足の MACD や RCI では、MACD は **MACD** が切り下げながら、**シグナル**も下げている。RCI では**短期**が上昇しているが、**長期**は下げるなど強気のサインは見せていない。特に日足が **10 日移動平均線**の 9520 円を下回った場合は弱気の転換になると思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,360,000 円(2023 年 11 月 20 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 73,920 円(2023 年 11 月 20 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>